

第一回「中国人留学生修士論文賞」受賞作品

中国のインターネットにおける対日言論分析

—理論と実証との模索—

東京大学田中明彦教授推薦 祁景滢著 日本僑報社発行 | ISBN 4-931490-78-6



現代の日中関係について、インターネットに現れる対日世論が重要だと言われる。最も先鋭な対日批判がインターネットで繰り返されているとも言われる。しかし、その実態を冷静に分析するとどうなるのか。中国の公式見解とどこが同じでどこが違うのか。中国のインターネット対日世論の構図を初めて体系的に分析したのが本書である。現代の日中関係を理解したい者にとって必読書であろう。

(東京大学東洋文化研究所教授 田中明彦)

【内容紹介】

中国のインターネットにおける対日言論に関する論文は多数出されているが、その殆どはネット対日言論の正体を明らかにするものでなく、感覚的イメージが先行するものである。「中国のインターネットでは反日言論が激しい」、「中国政府は反日感情を煽っている」など、日本攻撃の罵詈雑言が中国インターネットの対日言論の全体像として紹介される。それらの論調は、問題を解決するどころか、対日言論の緊張関係をより一層白熱化させるばかりである。インターネットにおける辛辣な日本批判は対日言論の表層にすぎず、その本質は単純な反日大合唱ではないということ、本書では指摘したい。

また、この分野の研究は、実証データの蓄積が未だ不十分であり、理論的分析も十分な成果をあげているとは言いがたい。拙論は、水掛け論に終わらせないため、いわば理論と実証のキャッチボールを通じて、中国のインターネット対日言論の真相を突き止めることを狙った。さらに、そこに反映されている中国政府や日本社会の有様を窺えると考えている。

中日関係において、政治的な友好は、サインひとつで成立する。経済的友好は、貿易が順調に進めば四、五年で実現できるかもしれない。しかし、両国民の間の感情的な友好関係を構築するには、少なくとも十年はかかるだろう。筆者はこれ憂慮し、中国のインターネットにおける対日言論の研究を通じて、中日双方の政府がいままで軽視していた「草の根の声」に耳を傾け、二一世紀における中日の平和・友好・協力関係を築き上げることに、ささやかながらも役に立つことができればと願っている。

著者略歴



祁景滢 (Qi JingYing) 中国で日本語学科とマスコミの修士課程を経て、現在、

東京大学大学院学際情報学府博士課程に在籍。

注文票		
FAX 048-432-7335		
氏名:	住所:	電話: fax:
	〒	
A5判 208頁		
注文部		
定価: 本体 2500円+税		
2004年6月30日発売		
<p>日本僑報社刊行日中関係の本</p> <ul style="list-style-type: none"> 『中国人特派員が書いた日本』 『永遠の隣人—人民日報に見る日本人』 『日中相互理解とメディアの役割』 『日中ホンネで大討論!』 『中国人の見た日本』 『中国人の日本語著書総覧』 『日本華僑華人社会の変遷』 『華僑社会の変貌とその将来』 『中国人の日本奮闘記』 『中国の1万2967人に聞きました。』 『私が出会った日本兵』 『つくる会の歴史教科書を斬る』 『新中国に貢献した日本人たち』 <p>ほか多数</p>		